



## 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成22年10月29日

上場会社名 株式会社 エイジア

上場取引所 東

コード番号 2352 URL <http://www.azia.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美濃 和男

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 中西 康治

TEL 03-6672-6788

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第2四半期の業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	325	27.3	52	510.6	52	484.9	50	469.9
22年3月期第2四半期	255	△24.3	8	△57.3	9	△55.3	8	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	5,446.39	5,413.78
22年3月期第2四半期	843.28	843.28

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	668	547	81.7	58,862.98
22年3月期	638	503	78.8	54,142.16

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 546百万円 22年3月期 503百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	750.00	750.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	750.00	750.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	615	3.4	65	15.3	65	14.3	65	37.1	6,990.75

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期2Q	11,631株	22年3月期	11,631株
② 期末自己株式数	23年3月期2Q	2,333株	22年3月期	2,333株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年3月期2Q	9,298株	22年3月期2Q	10,537株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の実績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間(平成22年4月1日～平成22年9月30日)におけるわが国の経済は、アジア向けの輸出や生産の増加、猛暑効果による消費増などにより、景気は回復傾向にあるものの、急激な円高の進行、不安定な雇用情勢、デフレ傾向の強まりなど、引き続き予断を許さない状況にあります。当社が属する情報サービス産業においても、IT投資を抑制する企業は依然として多く、厳しい競争環境が続いています。

このような状況の下、当事業年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)は、収益改善策として前事業年度に取り組んだ利益率の高いASP・SaaS※の増強を継続しつつ、中長期的な視点での当社の発展のため、新しい成長エンジンを発掘・育成することに注力しております。アプリケーション開発事業に比べると特色や利幅の薄い受託開発事業は思い切って縮小し、アプリケーション開発事業や新規事業のテストマーケティング等の業務への再配置を進めています。

これらの結果、当第2四半期累計期間においては、売上高325,143千円(前年同期比27.3%増)、営業利益52,563千円(前年同期比510.6%増)、経常利益52,821千円(前年同期比484.9%増)、四半期純利益50,640千円(前年同期比469.9%増)となりました。

事業別の状況は以下のとおりです。

## ①アプリケーション開発事業

増強中のASP・SaaS案件がおおよそ順調に進んだことに加え、比較的大型の案件の受注や、第3四半期以降の案件の前倒し受注等もあり、売上高は229,627千円(前年同期比38.0%増)となりました。

## ②受託開発事業

前述のとおり、新しい成長エンジン発掘のため、発展的に事業を縮小中ですが、既存案件の納品等により、売上高は95,515千円(前年同期比7.3%増)となりました。

## ※ASP・SaaS(エーエスピー・ソース)

ソフトウェア提供者(この場合、当社)が管理するサーバー上で稼動しているソフトウェアを、ユーザー企業がインターネット経由でサービスとして利用する形態。ユーザー企業は、サーバー・ソフトウェアの管理やライセンス費用の負担なく、毎月の使用料を支払うことで、比較的安価な利用が可能となる。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

## ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の総資産は、前事業年度末に比べ29,518千円増加し、668,462千円(前事業年度末比4.6%増)となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ受取手形及び売掛金が9,505千円減少した一方で、現金及び預金が32,096千円増加したことにより25,277千円増加いたしました。固定資産は、前事業年度末に比べ差入保証金が17,312千円減少した一方で、有形固定資産が19,203千円増加したことにより4,241千円増加いたしました。

当第2四半期末の負債は、前事業年度末に比べ14,375千円減少し、121,154千円(前事業年度末比10.6%減)となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ買掛金が11,837千円減少したことにより21,051千円減少いたしました。固定負債は、第1四半期会計期間より資産除去債務6,854千円を計上したことにより6,675千円増加いたしました。

当第2四半期末の純資産は、前事業年度に比べ43,894千円増加し、547,308千円(前事業年度末比8.7%増)となりました。これは、剰余金の配当により6,973千円減少した一方で、四半期純利益50,640千円を計上したことによるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物残高は、前事業年度末に比べ32,066千円増加し、405,402千円(前事業年度末比8.6%増)となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な発生要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果得られた資金は、43,604千円となりました。主な資金減少要因として仕入債務の減少額11,837千円、本社移転損失引当金の減少額6,880千円があったものの、主な資金増加要因として税引前四半期純利益53,145千円、売上債権の減少額9,505千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果支払われた資金は、4,956千円となりました。主な資金増加要因として差入保証金の回収による収入17,312千円があったものの、主な資金減少要因として有形固定資産の取得による支出17,423千円、定期預金の預入による支出3,029千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動の結果支払われた資金は、6,580千円となりました。これは、配当金の支払額によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績が順調に推移したため、平成22年5月10日付当社「平成22年3月期決算短信」にて公表した平成23年3月期第2四半期累計期間業績予想及び平成23年3月期通期業績予想を修正しております。

詳細につきましては、平成22年10月28日に別途開示いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

一部の項目について簡便な会計処理を適用しておりますが、重要なものではありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は、それぞれ1,056千円減少しております。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	435,716	403,620
受取手形及び売掛金	119,116	128,622
仕掛品	5,948	3,741
その他	16,675	16,330
貸倒引当金	△1,691	△1,826
流動資産合計	575,766	550,488
固定資産		
有形固定資産	27,819	8,616
無形固定資産	13,600	14,634
投資その他の資産		
その他	51,406	65,333
貸倒引当金	△130	△130
投資その他の資産合計	51,276	65,203
固定資産合計	92,695	88,454
資産合計	668,462	638,943
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,197	21,034
未払法人税等	1,423	1,994
製品保証引当金	151	361
賞与引当金	7,800	7,685
本社移転損失引当金	—	6,880
その他	82,559	84,226
流動負債合計	101,132	122,183
固定負債		
長期前受収益	7,450	9,549
繰延税金負債	5,715	3,795
資産除去債務	6,854	—
固定負債合計	20,021	13,345
負債合計	121,154	135,529

(単位：千円)

	当第2四半期会計期間末 (平成22年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	322,420	322,420
資本剰余金	243,954	301,086
利益剰余金	50,640	△50,158
自己株式	△75,467	△75,467
株主資本合計	541,548	497,881
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,892	5,532
評価・換算差額等合計	4,892	5,532
新株予約権	867	—
純資産合計	547,308	503,413
負債純資産合計	668,462	638,943

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	255,403	325,143
売上原価	96,108	108,955
売上総利益	159,295	216,187
販売費及び一般管理費	150,687	163,624
営業利益	8,607	52,563
営業外収益		
受取利息	136	110
受取配当金	6	6
未払配当金除斥益	544	—
雑収入	38	151
営業外収益合計	725	267
営業外費用		
支払手数料	179	—
雑損失	123	9
営業外費用合計	303	9
経常利益	9,030	52,821
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	135
製品保証引当金戻入額	—	209
特別利益合計	—	344
特別損失		
固定資産除却損	—	21
特別損失合計	—	21
税引前四半期純利益	9,030	53,145
法人税、住民税及び事業税	145	145
法人税等調整額	—	2,359
法人税等合計	145	2,504
四半期純利益	8,885	50,640



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	9,030	53,145
減価償却費	5,645	8,188
商標権償却	33	33
株式報酬費用	—	867
貸倒引当金の増減額(△は減少)	325	△135
賞与引当金の増減額(△は減少)	△558	114
製品保証引当金の増減額(△は減少)	65	△209
本社移転損失引当金の増減額(△は減少)	—	△6,880
受取利息及び受取配当金	△142	△116
固定資産除却損	—	21
売上債権の増減額(△は増加)	△15,957	9,505
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,110	△2,206
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,853	△11,837
長期前受収益の増減額(△は減少)	△1,025	△2,099
その他の流動資産の増減額(△は増加)	3,765	△125
その他の固定資産の増減額(△は増加)	154	△1,464
その他の流動負債の増減額(△は減少)	834	△3,181
その他	301	13
小計	△1,493	43,632
利息及び配当金の受取額	142	116
法人税等の支払額	△25	△145
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,376	43,604
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△3,048	△3,029
有形固定資産の取得による支出	△3,285	△17,423
無形固定資産の取得による支出	△112	△1,596
貸付けによる支出	—	△300
貸付金の回収による収入	280	80
差入保証金の回収による収入	280	17,312
その他	61	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,825	△4,956
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△20,715	—
配当金の支払額	△14	△6,580
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,729	△6,580
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△27,931	32,066
現金及び現金同等物の期首残高	409,792	373,335
現金及び現金同等物の四半期末残高	381,860	405,402

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。